



CSR Report
2014

経営理念

1. お客さま第一
三菱製鋼はお客さまに、常により高い品質と機能をより安く、心のこもったサービスでおとどけます。
2. 新技術の開発
三菱製鋼は保有する多様な技術を結集し、ユニークでより高い技術の開発に注力します。
3. 人を活かす経営
三菱製鋼は人を活かす経営を基本とし、活力に満ちた明るい企業集団をめざします。
4. 未来への挑戦
三菱製鋼はあふれる情熱と創造力をもって、世の中の変化に果敢に挑戦します。



発展する勝どき・晴海地区

編集方針

作成目的

ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを図るツールとして、報告書を発行いたします。

今年度は社会的責任に関する国際規格 ISO26000 の中核7主題にならない、報告内容を整理して取り組みを紹介しています。

対象期間

2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）を対象期間としましたが、一部対象期間外の内容も含まれます。

対象範囲

三菱製鋼株式会社を対象範囲としましたが、一部グループ会社も含まれます。

2014年11月発行
本書掲載の記事、写真等の無断転載を禁じます。
©MITSUBISHI STEEL MFG. CO., LTD. 2014

目次

ごあいさつ	3
会社概要	4
社会とのかかわり	5

ガバナンス

組織統治	
CSR推進	7
コーポレート・ガバナンス	8
リスクマネジメント	9
株主・投資家とともに	10

公正な事業慣行

コンプライアンス	11
お取引先様とともに	12

社会性報告

消費者課題	
お客様とともに	13
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	
地域社会とともに	15
労働慣行／人権	
従業員とともに（安全と健康）	17
従業員とともに（人材育成・雇用）	20

環境報告

環境	
環境マネジメント	23
地球温暖化対策	26
廃棄物等の削減・再資源化	27
環境負荷物質の管理	28

持続的な成長に向けて 新たな DNA を生み出すために



取締役社長
大野 信道

グローバルで持続的な成長を果たすために

当社グループは、特殊鋼鋼材、ばね、素形材製品、機器装置等幅広く事業を展開しております。近年は、北米やアジア地域などグローバル展開を推進し、今年度はインドに合併会社を2社設立し、また、インドネシアで資本参加するなど国際競争力の強化を図っております。こうした中、当社グループでは、事業活動とCSR活動を両輪として捉え、グループで共有するために「三菱製鋼グループ企業行動指針」を通じてCSR活動の理解・浸透を推進しております。このCSRレポートで毎年の活動を振り返り、今後の課題を全社で共有できるようにしております。

今後も社会から信頼される企業、従業員が自信と誇りを持てる企業を目指し、全社一丸となって取り組んでまいります。

社会から必要とされる企業であり続けるために

CSR活動を実践するために、企業としての基盤整備は欠かせません。そのため、当社グループではコーポレート・ガバナンス体制の整備のほか、コンプライアンス教育に力を入れております。

また、グローバル化が加速する中、異文化を理解し現地ごとの法規制への対応など地域から信頼され、お客様やお取引先様などが求めるニーズの把握に努めることで、社会から必要とされる企業であり続けたいと考えております。

新しい三菱製鋼グループのDNAを生み出すために

持続的な成長を目指すために、当社グループの成長エンジンとなる新たなDNAを生み出す施策として、一般教育や専門教育はもとより、グローバルに活躍できる人材育成などに取り組んでおります。

それにより国際競争力を向上させ、より高品質の製品を提供し続けてまいります。また、企業活動の基盤となる安全と健康を確保し、従業員が活躍できる企業を目指してまいります。

気候変動対応などさらなる環境保全を

当社グループの事業は環境へさまざまな影響を与えており、気候変動対応など環境保全に取り組むことは、持続可能な社会を守っていくためにも重要な課題であります。そのためには、開発・設計等の段階から環境保全に配慮したもののづくりに努めてまいります。

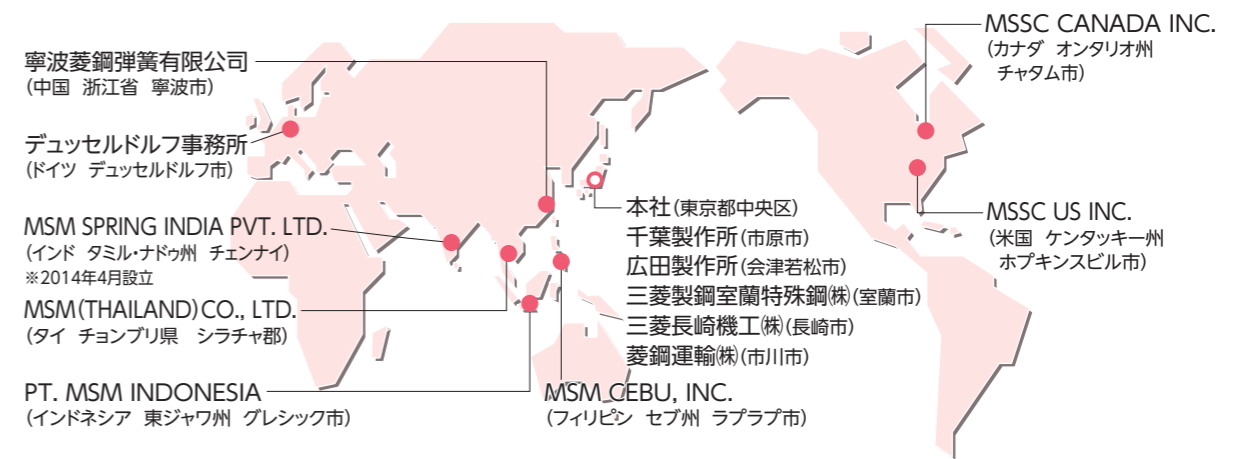
今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

「特殊鋼をつくり加工する」メーカーとして発展し、主に自動車や建設機械向けの特殊鋼鋼材、ばね、鍛造品を供給しています。当社グループは幅広い領域でさまざまな新技術・新製品を生み出し、より快適な社会の実現に貢献しています。また、地球へのやさしさをテーマとした技術開発にも積極的に取り組んでいます。

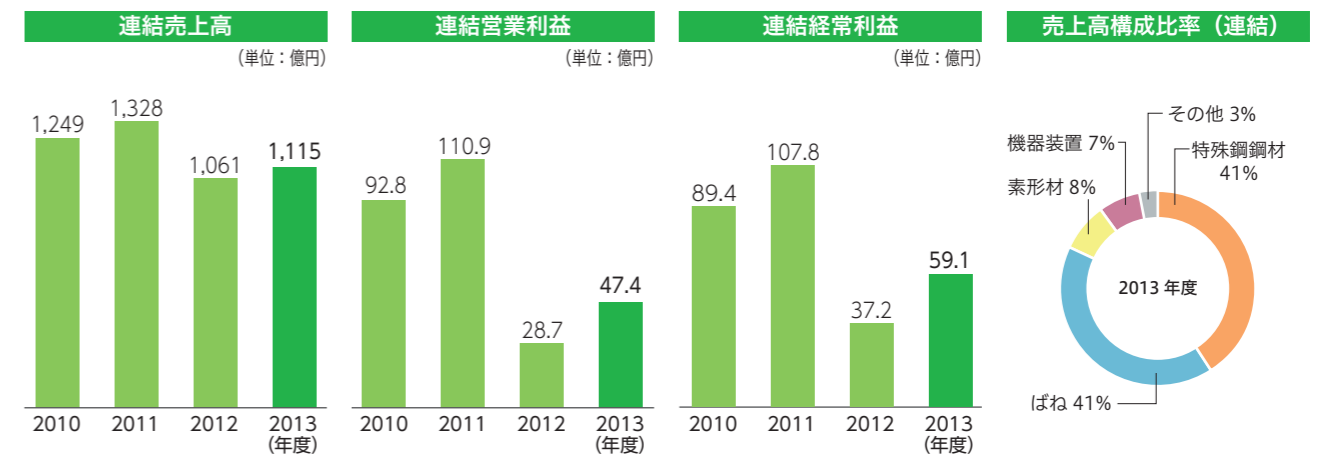
当社グループの概況 (2014年3月31日現在)

会社名	三菱製鋼株式会社	海外事務所	デュッセルドルフ (ドイツ)
本社	東京都中央区晴海三丁目2番22号	国内子会社	三菱製鋼室蘭特殊鋼(株) 三菱長崎機工(株) 菱鋼運輸(株)
設立	1949(昭和24)年12月	海外子会社	PT.MSM INDONESIA MSSC CANADA INC. MSSC US INC. 寧波菱鋼彈簧有限公司 MSM SPRING INDIA PVT. LTD. (2014年4月設立) MSM CEBU, INC. MSM(THAILAND)CO., LTD.
資本金	99億2千4百万円		
事業所	千葉製作所、広田製作所		
支社	中部 (名古屋)		
支店	大阪		
営業所	福岡、広島 アフターパーツ補給サービスセンター全国16カ所		

ネットワーク (国内・海外拠点)



業績の推移



「未来に答える三菱製鋼」

当社グループの製品は、私たちの暮らしの中のさまざまな場面で貢献しています。



浚渫船で



・バケット

工場

- ・鍛造プレス（鍛造加工）
- ・回転鍛造機（リング圧延）
- ・防振装置（機械振動防止）
- ・鑄造磁石（一般産業用ステッピングモーター用）
- ・精密鑄造品（搬送装置用部品）

LNG 貯蔵基地で

- ・鍛鋼品（LNG 貯蔵タンク用ノズル）

リサイクル場で

- ・磁力選別機（鉄・非鉄金属の選別）

下水処理場で

- ・下水污泥減量化・燃料化・肥料化プラント

電車で

- ・ばね（鉄道車両用）
- ・特殊鋼鋼材（大歯車等用）
- ・特殊鋼鋼材（鉄道線路部品のタイプレート用）
- ・鍛鋼品（駆動モーター用リテーナーリング）

社会とのかかわり

風力発電で

- ・特殊鋼鋼材（シャフト）

船で

- ・特殊鋼鋼材（船舶用ボルト・シャフト）

変電所で

- ・トーションバー（遮断機用）

発電所で

- ・タービンシリンダー（ガス発電用）

ビルで

- ・ばね（免震・制震装置用）

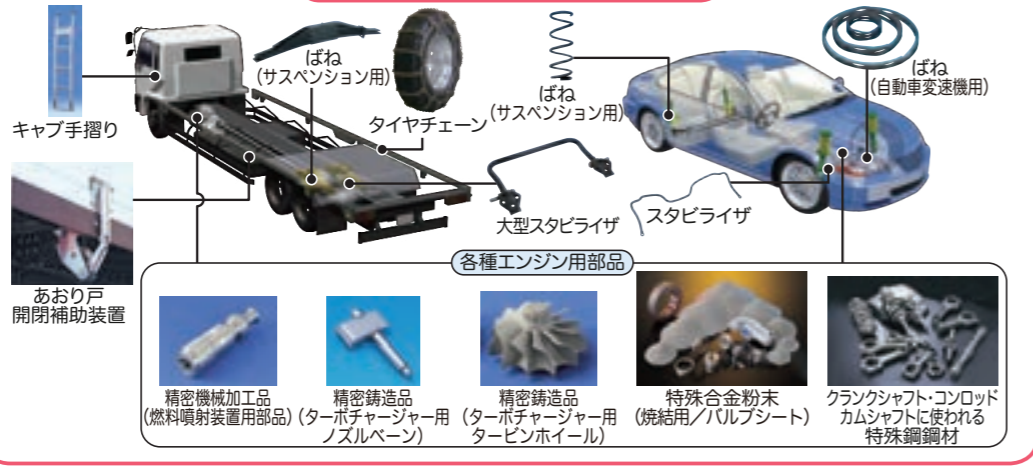
事務所で



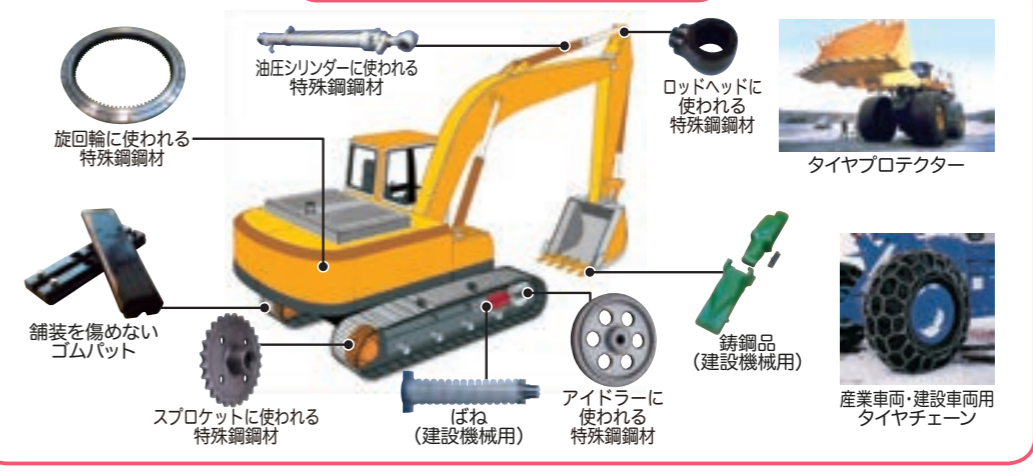
- ・ヒンジ（デジタルカメラ、パソコン）
- ・特殊合金粉末（焼結、MIM用/OA機器、通信機器）
- ・鑄造磁石（OA機器のステッピングモーター用）
- ・精密鑄造品（ドットプリンター用ヨーク）

社会とのかかわり

トラック・乗用車で



建設機械で



特殊鋼鋼材事業
■建設機械等に使われる特殊鋼
 建設機械・トラック等は、資源開発の現場では、過酷な環境の中で使用されており、その部品に使用される、高炉溶銹を主原料とした特殊鋼を生産しています。高い強度特性と耐久性を備えた信頼性の高い特殊鋼を供給しています。

ばね事業
■国内唯一の素材から製品までの一貫メーカー
 乗用車、トラック、建設機械等の足回りに使われるばね製品は、車両の安全性を確保する重要な部品です。当社は1904年に日本で初めてばねの製造に成功して以来、約1世紀の豊かな経験を持つとともに、国内唯一の素材から製品まで手掛ける一貫メーカーです。

素形材事業
■幅広い分野で活躍する素形材製品
 当社は鑄造・鍛造を中心としたさまざまな加工技術により、自動車・建設機械・産業機械・OA機器等幅広い産業分野で使用される高機能部品、高機能材料を提供しています。

機器装置事業
■基幹産業を支える機械・プラント技術
 当社グループである三菱長崎機工では、電力機器や化学プラント向け圧力容器などの鉄構造物、鍛造プレス・リングローリングミルなどの鍛圧機械、水熱処理装置や磁力選別機などの環境機器等、基幹産業を中心にさまざまな分野の工場設備・機械を手掛けています。

CSR 推進

当社グループは、「経営理念」「企業行動指針」に基づき、自らの社会的使命を果たすことで、より信頼される企業を目指し、お客様・取引先・株主・地域社会・従業員など各ステークホルダーとの対話を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

三菱製鋼グループ企業行動指針

当社グループでは、「三菱製鋼グループ企業行動指針」を策定し、「事業活動」「コンプライアンス」「情報開示」「社員の尊重」「環境保全」「国際化」の6つの柱を有し、その中で9項目を当社グループの行動指針として明文化しています。

三菱製鋼グループ企業行動指針

三菱製鋼グループは、社会的責任を果たし、社会から信頼される企業を目指すため、「三菱製鋼グループ企業行動指針」を定める。グループ各社の全ての役員・従業員は本指針を共有し、実行することを自らの責務とする。

事業活動

1. 常により高い品質と機能を持ち、顧客ニーズを満足させる製品・サービスを提供し、社会の発展に寄与する。
2. 保有する多様な技術を結集し、ユニークでより高い技術の開発に注力するとともに、収益性の確保に努めながら効率的な経営を目指し企業価値向上に努める。

コンプライアンス

3. 法令や社会規範を遵守し、公正で透明・自由な競争並びに適正な取引を行う。
4. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは決して関係しない。

情報開示

5. 企業情報を適時適切に開示し、透明性を確保する。

社員の尊重

6. 社員の人権・人格・個性を尊重し、差別を行わない。
7. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、人材育成を通じて企業活力の維持・向上を図る。

環境保全

8. 地球環境の保全は人類最重要課題の一つと認識し、事業活動のあらゆる面で環境の保全に積極的に取り組む。

国際化

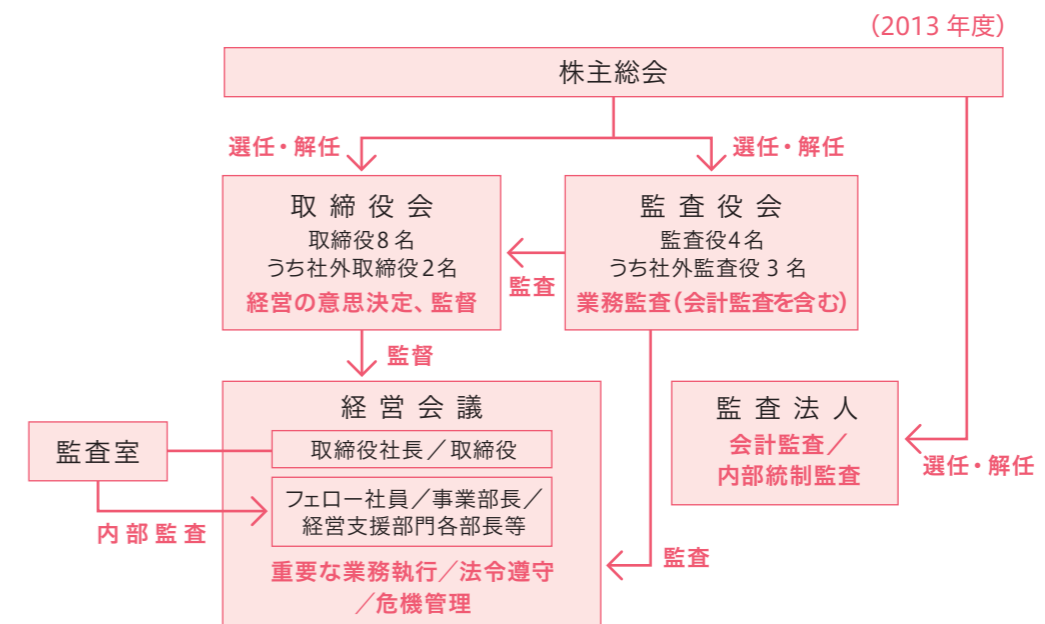
9. グローバルな事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重しながら経営を行う。

以上

コーポレート・ガバナンス

当社グループは、いかなる経営環境の変化にも対応できる企業体質を確立することを重要課題と認識し、競争力ある事業の育成を通じて、持続的かつグローバルに発展することを経営の基本方針としています。このためには、コーポレート・ガバナンスを充実させて迅速かつ合理的に経営の意思決定をし、かつこれに対するチェック機能を確保することが重要と認識しています。

コーポレート・ガバナンス体制



※取締役会は、経営の基本方針策定、法令・定款で定められた事項その他経営に関する重要事項の決定及び取締役の業務執行の監督をしています。監査役会は、法令遵守、危機管理を含め、グループ全体の監査を行っています。

内部統制に関する重点項目

◎内部統制に関する重点項目

当社グループは、内部統制システム上の重点項目として、「取締役会制度と監査役会制度の機能強化」と「経営会議による業務執行の審議並びに法令遵守・危機管理強化」を掲げています。

取締役会はグループ全体の経営戦略を方向付ける場であり、意思決定の迅速化に留意しつつ経営の基本方針策定、法令・定款で定められた事項その他経営に関する重要事項の決定及び取締役の業務執行の監督をしています。また、社外取締役及び社外監査役が取締役会に出席し、業務執行の決定における公平性及び透明性を確保しています。さらに、取締役、監査役、フェロー社員、事業部長、経営支援部門各部長等を構成メンバーとした経営会議を毎週定期的に開催（必要に応じて臨時に開催）し、重要な業務の執行、法令遵守、危機管理について審議し、対応しています。

◎財務報告に関する内部統制

当社グループでは、経営会議メンバーで構成される内部統制委員会及び取締役会で審議しています。2013年度の財務報告に係る内部統制についても、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して有効であると評価し、監査法人からも当該評価は適正であるとの監査意見をいただいています。

取締役会・監査役会の実施

定例取締役会・監査役会を毎月1回開催しています。各社外役員も、それぞれの見地から活発に意見を述べ、経営監視機能を十分に発揮しています。

2013年度実施状況

	開催回数	社外役員出席率 5名(うち社外監査役3名)
取締役会	14回	92%
監査役会	12回	100%

リスクマネジメント

健全な事業活動を継続するため、リスクが発生し、または予見される際は、迅速かつ的確に対応する危機対応能力の強化を推進し、リスクの未然防止に努めています。

事業継続計画

当社グループでは、リスクマネジメントにおける危機対応能力の強化を目的として、BCP（事業継続計画）の整備を推進しています。現在は、防災を中心に対応マニュアルを策定し従業員教育を行っていますが、今後は事業継続面の整備を強化し、不測の事態が発生した場合においても、企業活動を継続する、または早期に再開できるような生産・販売等の体制構築を図っていきます。

◎防災訓練

千葉製作所では5月に地元の八幡消防署と合同で震度6強を想定した避難・防災訓練を実施しました。消防署員の指導の下、消火班と救護班が消火と負傷者の応急手当の訓練を行うなど、実践的な訓練となりました。八幡消防署から指揮車と消防車4台が出動、放水訓練を実施し、有事の際の対応を再確認しました。



千葉製作所での放水訓練



災害対策本部

機密情報管理

当社では、機密事項に関し社外に開示すべき情報については適時適切に開示する一方、「機密管理マニュアル」を策定し、お客様・従業員・その他関係者からの多様化する情報に対応しています。

◎機密保持契約

機密事項の漏洩防止のため、従業員は入社時に「機密保持に関する誓約書」を提出します。機密管理の重要性を認識し、情報漏洩防止の徹底につなげます。

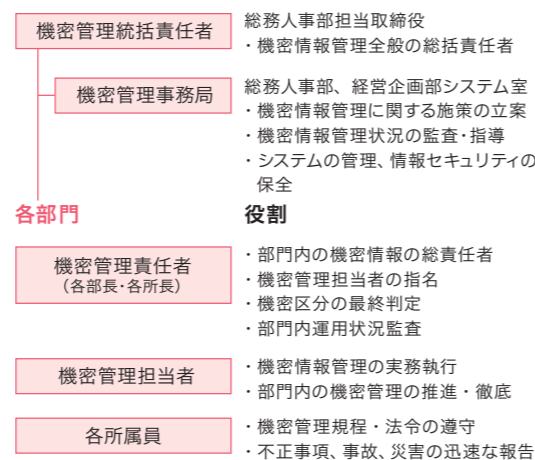
◎機密管理の教育

千葉製作所では、業務でパソコンを使用している従業員248名を対象に情報管理に関する教育を行いました。機密管理マニュアルを再確認し、従業員の意識向上に努めています。



機密情報管理教育

◎機密情報管理体制・組織



個人情報保護方針

三菱製鋼個人情報保護方針をホームページ上で公開しています。http://www.mitsubishisteel.co.jp/cont/kojinjouhou.htm
なお、2013年度には個人情報漏洩に関する事例はありませんでした。

株主・投資家とともに

当社は、企業価値向上へ向けて改善を進めるとともに、公正かつ適時適切な開示に努め、健全な経営基盤を維持しています。

ホームページでの情報開示

ホームページでは、トップページにおいて常に新しい情報を伝え、重要な情報をタイムリーに開示し、公正かつ適時適切な開示に努めています。その他、トピックス、CSR情報等を掲載し、法令や規則で定められた情報以外も積極的に開示しています。



ホームページトップ画面

株主の皆様とのコミュニケーション

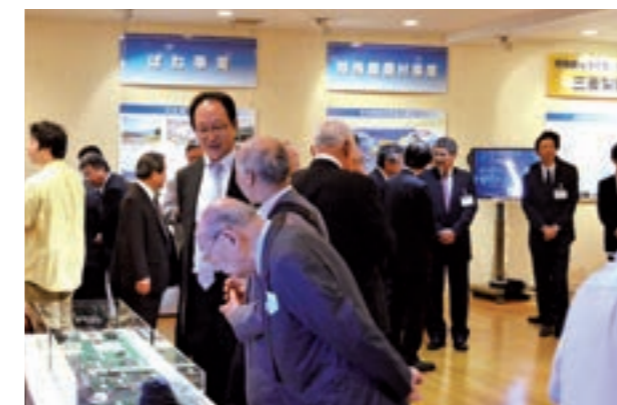
株主の方々には、期末・第2四半期決算後に「株主の皆様へ」を送付しています。該当する期間の業績の推移、セグメント別状況、トピックス等をグラフや写真を用いて掲載し、株主の方々にわかりやすく紹介し、当社グループに対する理解を深めていただけるよう努めています。



「株主の皆様へ」の冊子

株主総会・懇談会

当社では、定時株主総会終了後に株主の方々との情報交換の場として株主懇談会を開催しています。事業内容の紹介パネルや製品の展示、製造工程を動画等で紹介し、社長をはじめとする取締役や事業部長、営業部長が説明にあたっています。懇談会を通じ、株主の方々から直接ご意見をいただける大切な場と考えています。



素形材事業ブースにて製品を説明



ばね事業ブースにて製造工程を説明

コンプライアンス

当社グループは「三菱製鋼グループ企業行動指針」にも規定しているように、コンプライアンスを経営上の重要な課題として捉え、その徹底に取り組んでいます。

コンプライアンスの取り組み

当社グループでは経営会議、取締役会において法令を遵守した業務執行がなされているかどうか審議するとともに、監査役会によるグループ全体の監査と内部監査部門である監査室による従業員の業務執行監査を相互に連携しながら行うことで、コンプライアンス体制の構築・運用に努めています。



コンプライアンス研修

◎コンプライアンス教育

当社グループでは、コンプライアンス教育の充実に取り組んでいます。実際に起きた具体的な事例を取り上げ、階層に応じた教材を使用し、必要に応じて討論を組みこむ等、コンプライアンス問題を身近に感じてもらえるような工夫をしています。今後もコンプライアンス意識が一層向上し、役員はもとよりグループ従業員全体に浸透するよう継続して実施していきます。

反社会的勢力

当社グループは、反社会的勢力に毅然として対応し、一切の関係を遮断することを「企業行動指針」に定めています。これに基づき、取引先との契約において反社会的勢力排除条項を盛り込むことや、従業員教育のなかで反社会的勢力との関係遮断のほか、威嚇や不当要求に屈することのない毅然とした対応で臨むことを指導するなど行動指針の実践に努めています。

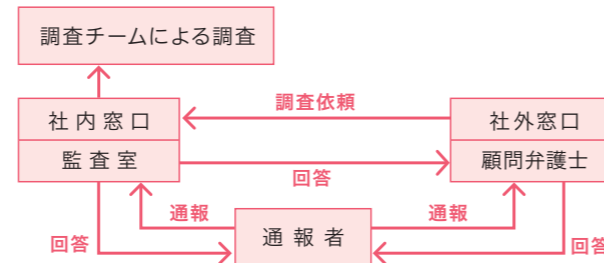
内部通報制度

内部通報制度として、社内・社外の窓口を設けています。通報方法として、電話・FAX・郵便・書面・面談のいずれも可能とし、また、匿名での通報も受け付けています。

年度	2011年度	2012年度	2013年度
実績 件数	2	2	3

※ 2011年度～2013年度で法令違反等の重大なものはありませんでした。

内部通報制度とその後の流れ



～不正行為の再発防止について～

当社グループ会社において、元従業員の不正行為が明らかになり、2014年6月に逮捕される事態となりました。関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。この事態を厳粛に受け止め、再発防止として、調査委員会の改善提言に加えて、社外専門家の協力も得て連結子会社まで含めた業務の点検・見直しを実施し、立案した対策を実行に移し取り組んでおります。今後も、コンプライアンス体制・教育を強化し、皆様の信頼を回復できるよう、全社を挙げて取り組んでまいります。

お取引先様とともに

当社では「三菱製鋼グループ企業行動指針」に基づき、顧客ニーズを満足させる製品とサービスを提供するために、公正・公平な取引を実施し、ビジネスパートナーであるお取引先様とともに、法令遵守・環境安全・人権保護に配慮した調達活動を推進していきます。

三菱製鋼グループの資材方針

1. 法令・社会規範の遵守（コンプライアンスの徹底）

当社では調達取引におけるコンプライアンス違反がないよう、年に1回の内部監査を実施し、下請法他関連法規の遵守状況を確認しています。また、「下請法マニュアル」により、都度社内関係者への教育を実施しています。

2. 公正・公平な取引とパートナーシップ構築

当社は全ての取引に公正・公平な取引の機会を提供します。また、全てのお取引先様と良きパートナーシップを築き、信頼関係の維持向上に努めています。

3. 地球環境への配慮

調達取引先及び調達品選定においては、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進しています。

4. 人権・労働安全衛生への配慮

基本的人権を尊重するとともに、労働安全衛生に配慮した調達活動を推進しています。

《コンフリクトミネラル（紛争鉱物）対策》

人権保護の観点から、コンフリクトフリーであることを確認して原材料の購入を進めています。また、お客様からのサプライチェーン調査へも随時対応しています。

5. CSR 調達の推進

お取引先様へも資材方針を説明し、ご理解とご協力をお願いしています。

お取引先様との取り組み

主要なお取引先様へは、資材方針についての基本的な考え方を説明するとともに、法令遵守や地球環境への配慮について協力を呼びかけています。また各事業所では、お取引先様とともに人権・労働環境・安全衛生・環境保護に関する問題に取り組んでいます。

◎千葉製作所の活動

千葉製作所では、構内の協力会社と合同で安全パトロールを実施しています。また千葉菱萌会（協力会）では、環境安全部会を組織し、一体となって環境と安全の改善活動を進めています。



協力会との環境安全部会

【Voice】

千葉菱萌会環境安全部会は、発足20年を超え、取り組みテーマは100を超えました。『安全は全てに優先する』を実践するため、三菱製鋼と協力会各社と一緒に活動し、互いのレベルアップにつながっています。今後ともさらなる改善を目指して、活動を続けていきたいと思っております。



千葉菱萌会環境安全部会長
(向島運送株式会社)
常務取締役
佐藤 有さん

お客様とともに

当社グループは、営業・製造・品質保証部門が一体となって、お客様の満足と信頼を得られる製品を提供し続けることで、社会の発展にも貢献していきます。

品質向上の主な取り組み

当社グループの製品は多岐にわたっており、お客様の要求も多種多様のため事業所ごとに、毎年その製造品目に合った方針を決めて品質向上に取り組んでいます。

実施項目	内容
品質会議の開催	品質管理活動の中心となる仕組みとして、各事業所では毎月品質会議を開催し、品質方針・目標に基づき、潜在的なリスクの洗い出しや品質クレームの未然防止に取り組んでいます。
品質パトロール	常に安定した品質が保てるよう、標準に則した作業がなされているかをチェックするため、品質パトロールを実施しています。
品質教育	「品質の維持向上には全従業員の高い品質意識が必要であり、そのためには教育が不可欠である。」との認識に基づき、品質教育を行っています。
品質監査	品質マネジメントシステムが効率的かつ有効的に運用されているか内部監査を実施し、規定どおり品質管理活動が行われているかどうかを確認しています。

2013年度各事業所の取り組み

【千葉製作所】

活動方針

品質マネジメントシステムの全員参画による継続的改善を図り“お客様第一”の理念の下、法令・規制要求事項を満たすことはもとより、顧客の要求事項及びニーズを最優先として製品に反映させ、顧客の信頼と満足を得ることをばね事業部の基本とする。

「クレームゼロ宣言」を発し、品質監査の徹底・不具合対策の再検証・自工程完結の徹底をしました。また、ばね部門のマザー工場として、海外工場と品質会議を実施し、情報の共有化を図ることでさまざまな問題について協議・解決へとつなげています。その結果、品質クレーム件数が前年度比 12% 減となりました。



寸法・形状検査

【広田製作所】

活動方針

- (1) 常に顧客のニーズを把握し、その品質要求に適合した製品を供給する。
- (2) 常に製造技術及び品質水準の向上を図り、国際競争力に対応する体制を作る。

品質管理のさらなるレベルアップを図るために、内部監査員の増員、旧宇都宮製作所から移管した加工部門の ISO9001 認証範囲の追加、QC パトロール実施の徹底を行いました。その結果、品質クレーム件数が前年度比 20% 減となり、不具合発生率の減少につながりました。



品質パトロール

【三菱製鋼室蘭特殊鋼】

活動方針

- (1) 顧客の品質要求に合致した製品を製造し供給する。
- (2) 製造技術及び品質水準の向上を図り、不良による損失を防止して、製造コストの低減と納期の遵守を図る。

2012年度は製鋼工場での社内不具合が発生したため、品質意識の向上を目的とした教育を実施するとともに、品質月間には協力会社を対象とした作業標準の重要性に関する教育を実施し、情報や知識の横展開を図っています。その結果、品質クレーム件数が前年度比 67% 減となりました。



品質会議

【三菱長崎機工】

活動方針

ISO9001の品質マネジメントシステムの要求事項に従って
(1) 適用する法令、基準並びに規格
(2) 契約に基づく顧客の要求を満足する製品(含むサービス)を提供し、顧客の満足と信頼を得ることである。

不具合予知・生産技術・工程管理等のソフト面での業務品質向上を図ることで、問題点の早期把握・明確化をし、品質の向上につながりました。また、品質監査を 22 回実施し、改善を継続することにより、品質クレーム件数が前年度比 47% 減となり、お客様による外部監査でも高評価をいただきました。

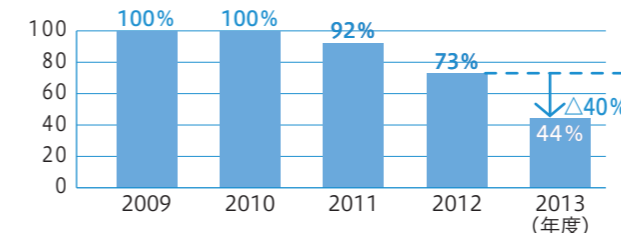


品質パトロール後の指摘確認

お客様満足の向上

クレームに対しては、現場の作業長や担当者も含めて「クレーム対策会議」を開催し、クレーム撲滅に努めています。2013年度は、品質会議等で、不具合の原因究明と是正処置の徹底を図った結果、品質クレームは前年度比 40% 減となりました。また、2013年度は約 250 回各事業所の工場をお客様にご見学いただき、当社のものでづくりに対して理解を深めていただいています。今後も営業・製造・品質保証部門が一体となって信頼できるものづくりに努めていきます。

品質クレーム指数[※]の推移



※品質クレーム指数：2009年度の件数を100%とした場合の指数

ISO 取得状況

【ISO9001】

国内事業

事業所名	取得年月
千葉製作所	2003年12月
広田製作所	2008年10月

国内関連会社

社名	取得年月
三菱長崎機工	1995年3月

海外関連会社

社名	取得年月
MSM CEBU	1998年3月
MSM (THAILAND)	1999年3月

【ISO/TS16949】

海外関連会社

社名	取得年月
MSSC CANADA	2004年7月
MSSC US	2004年9月
MSM (THAILAND)	2007年2月
寧波菱鋼彈簧	2009年10月

地域社会とともに

地域の一員として、さまざまな社会・地域貢献活動に取り組むとともに、積極的なコミュニケーションを通して社会との共生を目指します。

地域の皆様との交流

◎地域防災への協力

三菱長崎機工では、消防団への協力事業所として長崎市から認定を受けています。この制度は、地域での災害発生時に、消防団員として登録している従業員を派遣し、災害の早急な収束に協力するもので、13名の従業員を登録しています。地域企業の責任として自治体と連携し、地域の防災体制がより一層充実することを目指しています。



認定証



消防団協力事業所表示

◎連絡会の開催



連絡会の様子

広田製作所では毎年、工場の近隣住民の代表者を対象に、環境改善活動説明会を開催しています。製造工程、環境対策説明、臭気・騒音実績の報告後、皆様からのご質問にお応えし、近隣住民の皆様と直接意見を交わす大切な場となっています。今後もこうした機会を通じて、近隣住民の皆様とコミュニケーションを図っていきます。

◎地域行事への参加

三菱製鋼室蘭特殊鋼では、毎年8月に新日鐵住金(株)室蘭製鉄所主催の「むろらんファミリーフェスティバル」に参加しています。室蘭製鉄所構内外の企業が協賛し、その社員と家族らが参加する室蘭一大イベントです。地域住民との親睦を深める良い機会となり交流を図っています。

【Voice】

「むろらんファミリーフェスティバル」に妻と子供の3名で参加しスポーツ競技にも出場しました。日頃の運動不足解消にもつながり、また、社員や家族同士の親睦を深めることができ、楽しい時間を過ごしました。



三菱製鋼室蘭特殊鋼製造部庄延精整グループ 阿部浩明

就業体験

◎就業体験

当社グループでは、インターンシップを7名受け入れ、次世代を担う人材育成の支援の活動を展開しています。インターンシップを通じて、学生の皆さんに社会や企業に対する理解を深めてもらうとともに、受け入れ側も職場の活性化につながり、今後も企業の果たすべき役割として推進していきたいと考えています。



インターンシップに参加した学生の皆さん



現場で説明を受けている様子

文化的貢献

◎文化財の保護

当社が保存しているコイリングマシンが、日本の発展に寄与した文化遺産として日本ばね学会から「ばね技術遺産」第1号に認定され、本機の保存活動について表彰を受けました。本機は、日本に現存する最古のコイリングマシンであり、現在千葉製作所内に保管・展示しています。



ばね技術遺産第1号 製造年：1911年

◎絵本を届ける運動

アジアの子どもたちへの教育支援活動を行っている公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の「絵本を届ける運動」に賛同し2013年度より活動をスタートしました。貧困や紛争地域で経済的・社会的に教育が困難な子どもたちの支援をするために、図書が不足している各国へ日本語の絵本に現地語の訳文シールを貼って届けています。



絵本に翻訳シールを貼る作業



ミャンマー難民キャンプにて

寄付等による貢献

◎被災地支援を継続していきます

東日本大震災から3年目となり、被災地のニーズも多様化してきました。緊急支援からは持続的な復興支援が求められています。そこで「特定非営利活動法人日本 NPO センター」が行う「東日本大震災現地 NPO 応援基金」に賛同し、寄付金の拠出を行いました。今後も、継続した復興支援を実施していきます。

◎フィリピン台風被害への支援

当社グループでは、2013年11月に発生した台風ハイエンによる洪水被害に対し、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンを通して義援金を拠出しました。

フィリピンには、当社の海外拠点 MSM CEBU,INC. を置き、深い結びつきがあります。MSM CEBU,INC. では、従業員の希望により毎年実施していたクリスマスパーティーを中止し、その費用を義援金として拠出しました。



被災地にて

◎エコキャップ運動

ペットボトルのキャップを集めて送る「エコキャップ運動」に参加しています。NPO 法人エコキャップ推進協会に集められたエコキャップは、再資源化することでCO₂の削減をするとともに、再資源化で得た収益で発展途上地域の子どもたちにワクチンとして寄付されます。2013年度は、122,447個約142人分相当のポリオワクチンとなりました。

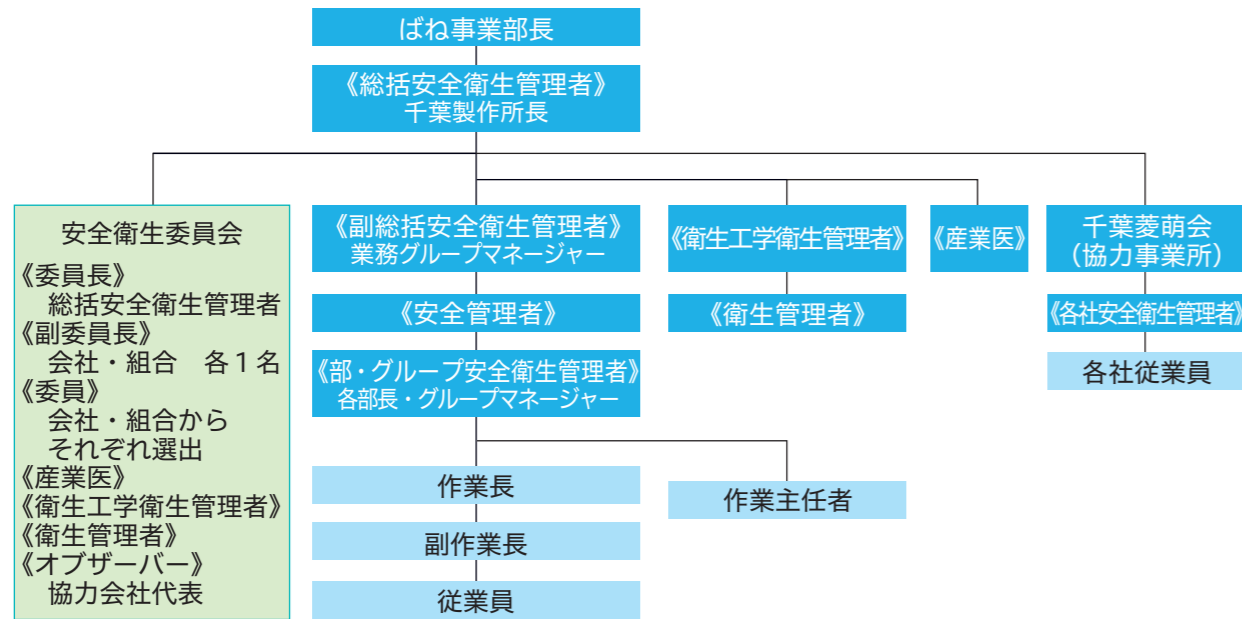
従業員とともに (安全と健康)

当社グループは、「安全はすべてに優先する」という考えのもと、グループで働く全員の安全と健康を確保し、快適な職場環境を作るべく、全員参加で活動を行っています。

安全衛生の取り組み

事業所ごとに労使メンバーにより構成された中央安全衛生委員会を設置し、安全衛生に関する情報を共有するとともに、災害発生の原因と対策を横展開しています。委員会では、労働災害の防止と従業員の健康の維持・管理・増進を図ることを目的とした方針を掲げています。また、安全衛生推進体制を下図のとおり定め、全員参加で快適な職場環境づくりを推進しています。

【安全衛生推進体制 (例) 千葉製作所】



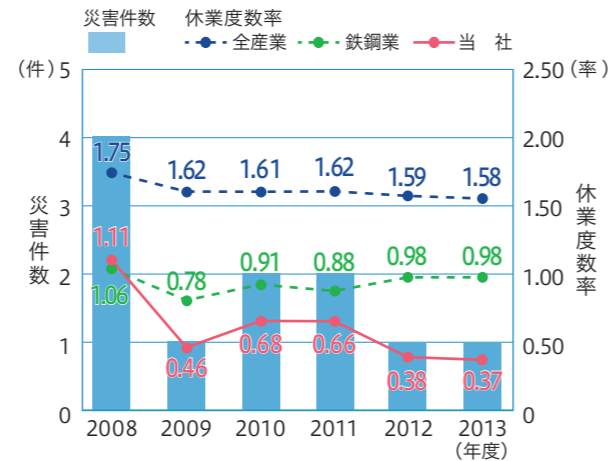
2013 年度安全の状況

年間完全無災害を目標とし、安全衛生パトロール、ヒヤリ・ハット摘出、リスクアセスメントなどの安全活動推進により、災害を発生させない体質の強化を図っています。2013年度は、災害防止策として千葉製作所・広田製作所・三菱製鋼室蘭特殊鋼において不安全箇所を洗い出し、役員による安全総点検等を実施し、不安全箇所があれば直ちに改善を行いました。また、作業標準などのルールを守り守らせる職場環境の醸成に努めています。



パトロール風景

休業災害度数率



※休業度数率 (100万時間あたりの災害者数)
 度数率 = 労働災害による死傷者数 ÷ 延労働時間数 × 1,000,000

各事業所の安全活動

各事業所では、毎年安全衛生方針と目標を掲げ、安全衛生計画を立案し推進しています。KYT (危険予知訓練)・現場のパトロール・安全教育を継続して実施することにより、安全の感受性を高め、安全の向上に努めています。

【ヒヤリ・ハットで改善・見直し】

三菱長崎機工では、毎年6月を「ヒヤリ・ハット提出強化月間」とし、ヒヤリ・ハットとなる事例を横展開し、原因の調査・分析をしています。不安全箇所・作業の改善、作業標準の見直しを実施し、災害の未然防止に取り組んでいます。



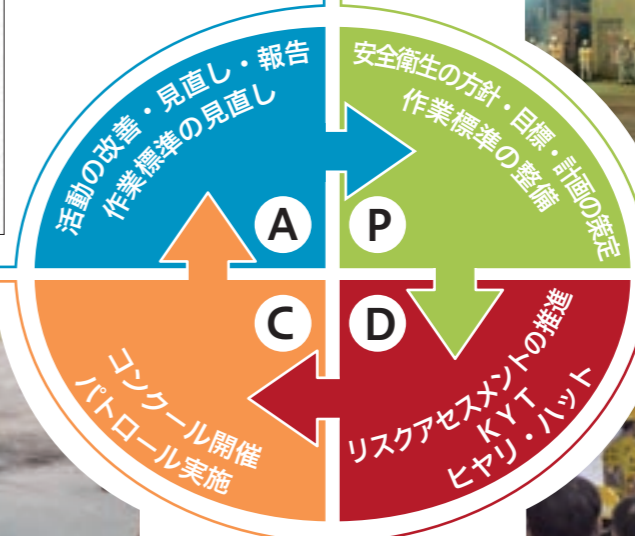
ヒヤリ・ハット報告票

【玉掛け技能教育委員会の設置】

三菱製鋼室蘭特殊鋼では、「玉掛け※2 技能教育委員会」を設置し、玉掛け作業指導者の育成と傷害防止に関する調査研究に努めています。また、玉掛け作業従事者に対し、3年に1度技能更新を行うとともに、年に一度玉掛けコンクールを実施し計画的に安全活動を進めています。



玉掛けコンクール



競技風景

【フォークリフトコンクールの開催】

広田製作所では、年1回フォークリフトコンクールを開催して基本動作について競技しています。日頃の運転動作を再確認する場とし、技能向上を目指しています。



KYTコンクール

【KYTの実施】

千葉製作所では、安全意識の向上を図るため、毎月部署別に KYT を実施しています。潜在するリスクの洗い出しや、対策を話し合うことで危険な状況への感受性を高め、安全を追求しています。

◎海外生産拠点における安全衛生の取り組み

当社グループは、北米・アジア地域に生産拠点を有しており、拠点ごとに安全衛生基本方針を掲げ、安全活動に取り組んでいます。当社グループ及び他社で発生した災害事例を国内外の工場へ横展開し、情報を共有するとともに、再発防止に努めています。

用語解説 ※1 PDCA: PDCA: サイクルは、Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) の4段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること。
 ※2 玉掛け: クレーンなどに物を掛け外しする作業。

従業員とともに (安全と健康)

健康管理

定期健康診断及び人間ドックにて、要治療や要精密検査等の判定のあった従業員に対し、産業医や保健師による適切な指導を行うほか、社内レクリエーション等を積極的に実施し従業員の健康増進に努めています。

◎ウォーキング

本社部門では、5月に労使協催の取り組みの一環として、「健康増進ウォーク」を開催しました。本社から有明までの3.3キロの道のりを歩き、日頃の運動不足の解消に努めました。労使が協力し健康増進活動を展開しています。



本社近くの晴海大橋をウォーキング

◎ヘルシーメニューを提供

千葉製作所では、保健師による定年到達者への健康管理指導や女性を対象にした健康相談を実施しています。また、毎月メタボリックシンドローム予防で生活習慣の見直し支援を行っており、相談者数は年間110名を超えました。このことを受け生活習慣の見直しの一環で、カロリーを600kcal以下に抑えたヘルシー弁当を社員食堂で提供しています。

◎熱中症予防対策



保冷剤入りベストの配付

千葉製作所では、熱中症予防対策としてスポーツドリンク・梅干・塩飴の配付に加え、希望職場にはスポットクーラー・冷水機を設置しています。

また、熱処理職場には、保冷効果のあるベストやタスキを配付しました。今後も継続して従業員の熱中症を予防していきます。

◎メンタルヘルス教育

メンタルヘルスに関する教育研修を行うため、講師を養成する講習会に各事業所から数名を選出・派遣し育成する取り組みを始めました。事業所ごとの特性に合った指導ができるものと期待しています。また三菱長崎機工では、メンタルヘルスについて正しい知識を身に付けるため、中堅社員を対象としたラインケア研修を実施しました。ストレスと健康管理等のメンタルヘルスケアについて学び、早期発見・早期対応に努めています。



講師育成

◎PM2.5対策

寧波菱鋼彈簧有限公司(中国)では、PM2.5対策として、大気質指数を確認し、情報を共有化しています。また、PM2.5対策用のマスクやうがい薬を備蓄し、配付しました。当社は、北米・中国・東南アジア等に海外事業拠点を有しており、それらの国々との一層の情報共有化を図るとともに、いち早く対応し健康被害を未然に防ぐ体制を整えています。

従業員とともに (人材育成・雇用)

当社グループでは、従業員の人権を尊重するとともに、仕事と生活が両立でき、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。また、社員の能力が活かされるよう、職種やキャリアに応じたさまざまな研修を行っています。

人材育成

◎新入社員育成に関する取り組み

新入社員育成の取り組みとして、社会人としての基本を主体とした導入研修に加え、6ヶ月に及ぶ長期の工場実習を組み合わせた育成プログラムを行っています。配属後は、エルダー社員制度により、教育及び相談相手として新入社員1名に対し、教育担当の先輩社員1名を任命し育成しています。

新入社員研修プログラム

期間	研修内容
4月	導入研修 ・安全衛生教育 ・メンタルヘルス教育 ・コンプライアンス教育 ・ビジネスマナー研修 ・コミュニケーション研修 ・英語研修 ・自衛隊生活体験研修 他
5月～10月	工場実習 素材から製品までのものづくりの基本となる工場実習 ・広田製作所実習(5月～6月) ・三菱製鋼室蘭特殊鋼実習(6月～7月) ・千葉製作所実習(7月～10月)



《11月配属》

11月に配属し入社3年目まで、エルダー社員制度により若手先輩社員によるマンツーマン教育・指導を実施しています。新入社員の早期育成と仕事に対する不安解消を図っています。



ビジネスマナー研修



千葉製作所での工場実習

◎階層別教育

従業員一人ひとりがその役割に応じた職務を遂行すべきスキルを身につけるための各階層別教育を実施しています。

階層別研修

研修対象者	研修内容
上級管理者	日本と海外における人材及びリスクマネジメント
部長	経営的観点から重要課題を的確に把握
マネージャー	職場状況を幅広く捉え、重要課題の的確な把握
作業長	安全管理の基本知識、現場安全管理・人的安全管理(主にメンタルヘルス)を学ぶとともに現場力の強化につなげる
エルダー	新入社員の早期戦力化を図るため、エルダーに対し指導・教育のスキルを習得させるとともにモチベーションを高める



研修での社長訓話

◎国内留学派遣

電気技術者育成を目的として、産業界技術短期大学に派遣し、集中的に育成を行っています。

【Voice】

この留学まで電気についての知識がありませんでしたが、回路理論や過渡現象を学ぶことで作業の意味を理解することができました。作業の一つ一つに多くの知識を必要とし、そこに経験が重なることで立派な作業になるのだと思いました。少しでも多くの知識を身につけ自信を持って会社に戻れるよう頑張っていきます。



要 亮佑

従業員とともに (人材育成・雇用)

◎グローバル人材の育成



海外研修の様子

【海外研修制度】

グローバル人材を育成する海外研修制度として、入社1年目から3年目の若手社員を中心に当社海外拠点に2年間赴任させ、語学研修と実務実習をしています。現地での言語や習慣、ビジネスに触れることで、柔軟に対応できる能力を身につけ、将来のグローバル人材となることが期待されています。

◎海外赴任前研修

海外赴任が予定されている従業員を対象とした、海外赴任前教育の拡充と定着化を図っています。赴任までの短期間に、海外危機管理研修を実施するとともに、監督責任のある従業員には、現地スタッフへの理解を深めるため、赴任国の文化・社会的背景について学びます。さらに、帯同家族には海外生活や子女教育などについて相談できる機関を紹介しています。海外赴任に十分な備えをすることで、活躍できる環境を整えるとともに、企業として従業員に対する安全配慮義務を果たしていけるよう取り組んでいます。

【Voice】

2年間に及ぶインドネシアでの研修では、試圧延、設備改善、在庫管理などの観点から多くのアドバイスをもらいました。また研修で得たものの一つとして、現地の方とのコミュニケーションがあります。依頼をする時、自分が内容を理解していないと説得力に欠けるものとなり、相手のモチベーションにも影響します。この研修で得たコミュニケーション力を生かし、今後の業務を円滑に進めることができるよう取り組んでいきたいです。



三菱製鋼室蘭特殊鋼製造部 圧延精整グループ 足木英晃

多様な人材の活用

◎障がい者雇用

障がい者雇用は企業の社会的責任と捉え、2013年度は新たに2名の障がい者を雇用しました。一人ひとりが最大限の能力を発揮できる環境を整えつつ、今後も法定雇用率2.0%以上の雇用を目指していきます。

◎シニア社員制度

定年退職後も技能や知識を生かし伝承するため、希望者を再雇用し、継続して活躍できる場を提供しています。

シニア社員制度利用率

年度	2009	2010	2011	2012	2013
再雇用率 (%)	23.4	52.8	27.6	26.3	44.4

【Voice】

シニア社員となり、今までと同じ職場でやりがいをもって業務にあたっています。今は、後輩の育成のために、入社して43年の間に積み上げてきた経験とスキルを生かし、後輩の指導に日々取り組んでいます。



千葉製作所 業務グループ 平山利喜男

◎働き続ける環境整備

女性の活躍は企業の経営戦略に欠かせないものであると認識しており、2011年から新入社員研修で“ものづくりの原点”である工場実習を実施しています。さらに、グローバル人材の育成として北米・中国・タイへ派遣し、語学に加え現地風土を学び、帰国後は各職場で活躍しています。また、育児休業取得後の継続就労者も増加しており、今後は、中長期計画として、職場風土の改善、働きやすい制度の充実に取り組んでいきます。

ワークライフバランス

育児を行う従業員に対する子育て支援として、法基準を上回る制度で支援を行い、また、高齢化社会に向けて、介護支援制度の充実を図っています。仕事と家庭を両立できる職場環境づくりを推進しています。

育児休業規程

休業期間	育児休業は、最長1歳6か月まで繰下げ可
育児休業を希望しない場合の取扱い	子が3歳まで。請求により時間外労働免除等の措置
子の看護休暇	小学校就学前まで、子が1人の場合5日/年、2人以上の場合10日/年を限度
短時間勤務制度	子が3歳まで。所定労働時間を6時間(時間帯は別途調整)
時間外労働の免除	子が3歳まで。時間外労働を免除
時間外労働の制限	小学校就学前まで、24時間/月、150時間/年を限度
育児のための深夜業の制限	小学校就学前まで、請求により原則深夜労働を免除

介護休業規程

休業期間	対象家族1人につき最長1年間
介護休業を希望しない場合の取扱い	請求により時間外労働を免除
介護休暇	対象家族が1人の場合、5日/年、2人以上の場合10日/年を限度
介護のための短時間勤務	最長1年まで
介護のための時間外労働の制限	24時間/月、150時間/年まで
介護のための深夜業の制限	請求により、原則深夜労働を免除

【Voice】

第一子出産後、約1年半の育児休業を経て復職しました。育児休業中は、職場の方々が温かく送り出してくれたおかげで、育児に専念し子どもの日々の成長をしっかりと見守ることができました。復職してからは、育児短時間勤務制度を利用して勤務しています。最初は短い勤務時間の中で業務を進めていくことに苦労しましたが、上司や同僚の方々に助けてもらいながら育児と仕事を両立できるようになってきました。私の働き方を理解し、サポートしてくれる職場関係者の皆様に感謝しています。これからは、育児休業という経験を生かして、より女性が活躍できる環境づくりを推進していきたいと考えています。



総務人事部 人事グループ 成田彩也香

人権の尊重

「社員の人権・人格・個性を尊重し、差別を行わない」ことを企業行動指針に掲げ、「三菱人権啓発連絡会」へ積極的に参加するなど人権意識の向上に努めています。また、ハラスメント対策として従業員による相談窓口を設け、人権侵害を未然に防止する施策を講じるとともに、人権問題に対して迅速かつ適切に対応できるよう相談員の教育を実施しています。

労務データ

労務管理データ [単体] (名)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
従業員数	878	839	817	793	785
(男)	802	767	745	718	707
(女)	76	72	72	75	78
平均年齢	40.3	41.6	42.1	42.3	42.9
平均勤続	18.4	19.2	19.6	19.8	19.7
採用数	35	4	16	10	15
(男)	32	3	13	8	11
(女)	3	1	3	2	4

年次有給休暇取得状況 (一人平均)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
取得日数	3.1	9.1	9.9	9.1	9.8
取得率%	15.7	45.3	49.4	45.5	48.8

環境マネジメント

環境マネジメントシステムを構築・運用して、地球環境保全を視野に入れた、積極的な環境保全活動を進めています。毎年、各部門ごとに環境目標を設定し活動するとともに、環境教育による従業員の環境意識の向上、環境監査によるシステム有効性の確認なども実施しています。

三菱製鋼グループ環境方針

当社グループは、地球環境の保全が、企業活動における最重要課題の一つであることを認識し、環境負荷低減に努め、環境に対する基本的な考えを明確にした「三菱製鋼グループ環境方針」を2001年に制定しました。

基本理念

私たちは地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、事業活動のあらゆる面で環境の保全に積極的に取り組みます。

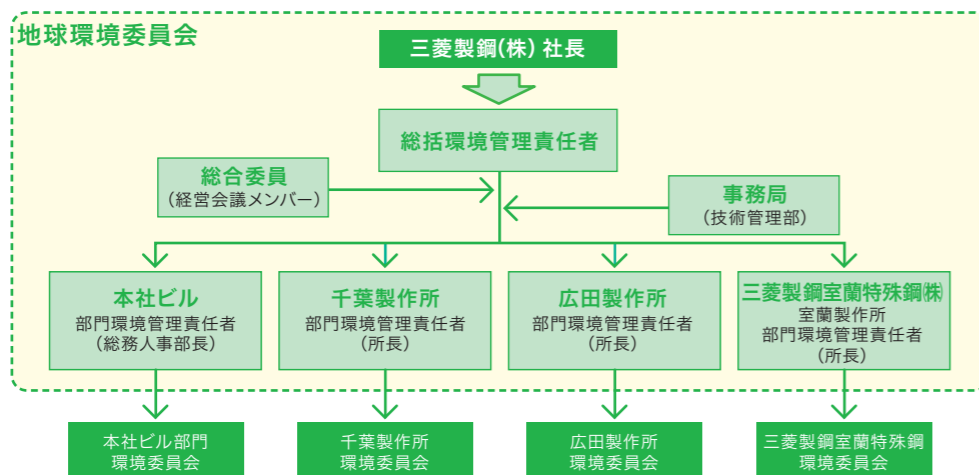
行動指針

1. 環境保全のための地球環境委員会を設置し、環境対策を推進するとともに、環境管理の継続的改善に取り組みます。
2. 製品の企画・開発・設計段階から環境保全に配慮したもののづくりに努めます。
3. 事業活動のすべての領域で省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の減量等を行い、汚染の予防に取り組むとともに地域社会との協調に努めます。
4. 環境に関する法律や規制及び当社が同意するその他の要求事項を守ります。
5. 環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより環境保全活動の継続的な改善、向上に努めます。
6. 環境教育、グループ内広報活動を通じて、全従業員へ環境方針を周知し、環境に関する意識向上を図ります。

環境マネジメント体制

当社グループは、環境保全活動を推進するために、全社的な組織を構築しています。その中心となるのは、「地球環境委員会」（社長をはじめとする経営会議メンバーと部門環境管理責任者で構成）で、年1回以上開催され、前年度の環境活動結果報告と当年度の計画を経営層がレビューします。当社グループの環境組織としては、この地球環境委員会の下部組織として、各部門に環境委員会を設置し、各部門の状況に即した環境活動を推進しています。

三菱製鋼グループ環境組織図



2013年度の取り組み

当社グループでは、毎年、各部門で環境目標を設定し、それぞれ環境活動に取り組んでいます。

2013年度は、環境上の重要な項目ごとに、各部門で下表のような事項を環境目標として取り組みました。各項目の2013年度の実績と実際の活動状況については、対応するページに詳細を記載しています。

2013年度 各部門の主な環境目標

項目	環境目標
地球温暖化対策 (⇒ 26 頁) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電力原単位の低減（千葉製作所・広田製作所・三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 使用燃料（都市ガス）原単位の低減（千葉製作所） ● 燃焼ガス原単位の低減（三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 蒸気使用量原単位の低減（三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 製品歩留の向上による CO₂ 排出量原単位の低減（広田製作所） ● 貨物輸送エネルギー使用量の削減（本社ビル） ● 輸送効率の向上（千葉製作所・三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 文書電子化とキャビネット・書棚の削減（本社ビル） ● 新業務システムの定着化と横展開（本社ビル） ● 製造ライン（小型スタビライザ、建設機械用太巻ばね、自動車懸架用ばね）ごとの品質不良の低減（千葉製作所）
廃棄物等の削減・再資源化 (⇒ 27 頁) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮商品の販売量の拡大（本社ビル） ● グリーン購買率目標値設定によるグリーン購買の推進（本社ビル） ● グリーン調達発展運用 化学物質規制対象品目の管理体制強化（千葉製作所） ● 印刷書類の見直しによる上質紙使用量の削減（本社ビル） ● 鋳造歩留の向上（三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 圧延工程及び精整工程での歩留向上（三菱製鋼室蘭特殊鋼） ● 廃棄物原単位（生産量当たりの廃棄物量）の低減（千葉製作所） ● リサイクル率の向上（千葉製作所） ● レンガの耐用性向上と廃棄レンガの分別回収による管理型廃棄物の抑制（三菱製鋼室蘭特殊鋼）
環境負荷物質の管理 (⇒ 28 頁) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産工程からの臭気対策（広田製作所） ● 工場からの騒音対策（広田製作所） ● VOC（揮発性有機化合物）使用量の削減（三菱製鋼室蘭特殊鋼）
環境マネジメント (⇒ 25 頁)	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境社会への貢献《本社周辺地域の清掃活動》（本社ビル） ● 環境に関する最新情報の事業部への発信による環境意識の向上（本社ビル）

環境マネジメント

環境教育

すべての従業員が環境意識を持って業務にあたるようになるため全従業員に定期的に教育を行っています。それ以外に、著しい環境影響に携わる業務に従事している従業員や新入社員などに対してそれぞれに適した教育を実施しています。

実施している主な教育内容

名称	内容	対象者
自覚教育	環境マネジメントシステムや環境方針などに関する事項	全従業員
特定教育	著しい環境影響に係る業務を遂行するために必要な知識や技能を身につける	特定作業従事者
新入社員教育	ISO14001、環境マネジメントシステムなどに関する項目	新入社員

内部監査員養成は、内部監査を実施するための事項ではありませんが、各人の環境意識の向上という教育的目的も含め積極的に推進しています。



内部監査員養成講座

環境監査

当社グループでは、EMS（環境マネジメントシステム）が、有効に機能しているかどうかについて毎年、内部監査と外部機関による審査を行っています。

外部審査結果 (件)

指定区分	2009年度	2010年度 (更新)	2011年度	2012年度	2013年度 (更新)
軽微な不具合	0	0	1	1	0
改善の機会	36	79	43	54	51
計	36	79	44	55	51
良い点	28	29	36	26	17

環境保全コスト

2013年度の環境保全コストを環境省「環境会計ガイドライン」を参考に集計した結果を下表に示します。

(単位：百万円)

分類	主な内容	費用	投資
1. 事業エリア内コスト	産業廃棄物処理費用、集塵機電力、集塵機点検・修理・清掃費用、水処理設備維持(点検・清掃)費用、プロインバーター化投資、炉燃焼効率向上投資	751	104
2. 上・下流コスト	上流(調達先等)または下流(製品使用先等)で発生する環境負荷を抑制するためのコスト	0	0
3. 管理活動コスト	ISO認証維持・運用費用、環境負荷監視(測定・分析)費用	61	0
4. 研究開発コスト	環境負荷抑制(省エネ等)のための研究開発	95	0
5. 社会活動コスト	環境関連団体に対する会費	0	0
6. 環境損傷対応コスト	土壌対策措置費用	147	0
合計		1,054	104

※本社及び主要3事業所計

環境 ISO の取得状況

国内事業所

事業所名	取得年月
本社部門	2001年 10月
千葉製作所	2002年 5月
広田製作所	2003年 7月

国内関連会社

事業所名	取得年月
三菱製鋼室蘭特殊鋼	2003年 7月

海外関連会社

社名	取得年月
MSSC CANADA	1999年 3月
MSSC US	2001年 12月
MSM CEBU	2007年 12月
寧波菱鋼彈簧	2009年 2月
MSM(THAILAND)	2012年 3月

地球温暖化対策

地球温暖化対策のため、全社各部門でCO₂排出量削減に取り組んでいます。

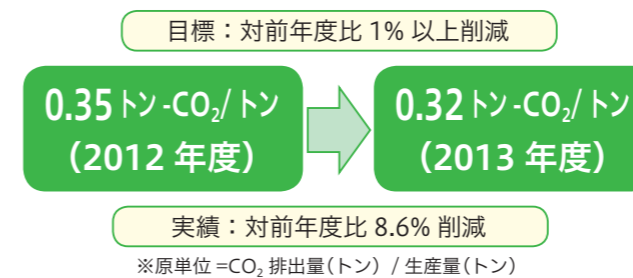
当社グループは、そのほとんどがエネルギー起源によるCO₂のため、生産活動や輸送のエネルギー低減を中心に取り組みを進めています。

活動実績

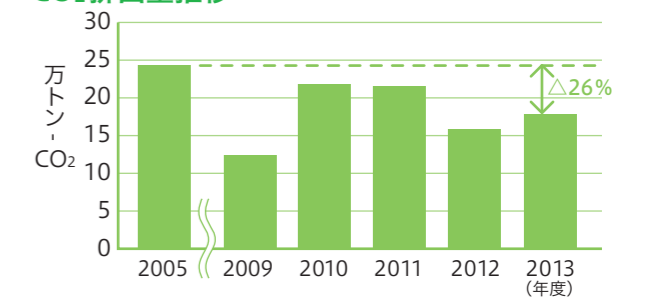
2013年度は、目標としてCO₂原単位(対生産重量)を対前年度で1%削減しようという活動しました。その結果、CO₂原単位で、対前年度8.6%の削減になりました。

CO₂排出量は、17万9千トン(主要3事業所計)となり、2005年度(基準年)の26%減になりました。なお「2005年度」は、現在、日本が国際的にコミットしている温暖化ガス削減目標(3.8%)の基準となる年です。

(CO₂原単位実績)



CO₂排出量推移 ※主要4事業所(2013年度は主要3事業所)



取り組み事例

区分	具体的な実施例
工場での取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 工場の屋根への散水による室内温度上昇の抑制 操業形態見直し、昼休みライン連続操業による効率化 電気炉(溶解炉)の連続集中操業による効率化 送風ファンの駆動装置のインバーター化 工程の最適化による予熱炉への鋼片温間装入 工場天井灯を水銀灯からセラミックメタルハライドランプへ交換 事務所照明を蛍光灯からLEDライトへ交換 グリーンカーテン
オフィスでの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光灯の間引き OA機器の省電力設定及び不要時の電源オフ 昼休みの消灯 定時退社日の設定 クールビズの実施
物流での取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 積載量の増加による運送回数削減 出荷量により貸切便を混載便に変更 できるだけまとめて大型便で出荷 モーダルシフト(鉄道・船輸送)の推進

グリーンカーテン

(輸送エネルギー原単位実績)

15.8 kL/千トン (2012 年度) → 14.8 kL/千トン (2013 年度)

実績：対前年度比 6.3% の削減

※原単位 = 輸送エネルギー量原油換算値(kL) / 売上重量(千トン)
(本社部門 + 主要3事業所計)

【再生可能エネルギーの利用】

千葉製作所に設置した太陽光発電設備は、2013年4月8日から運転を始め、1年間で88万kWhの電力を発電しました。これは、一般家庭の約240世帯分にあたり、年間460トン分のCO₂の削減となります。



廃棄物等の削減・再資源化

持続可能な循環型社会の構築に貢献するため、事業活動に伴って発生する廃棄物の削減やリサイクルの促進に取り組んでいます。また、埋立処分量ゼロ（ゼロエミッション）に貢献する製品の開発にも取り組んでいます。

活動実績

2013年度は、産業廃棄物総量は、前年度に比べ生産量が増えたため、20,656トンと対前年度比で19%増加となりましたが、生産量当たり発生する産業廃棄物量（産業廃棄物発生量原単位）は、対前年度比で3.4%改善しました。



取り組み事例

◎千葉製作所の取り組み

千葉製作所では、産業廃棄物の削減・再資源化に早くから取り組んでいます。実績として汚泥、廃酸、木くずは、産業廃棄物として排出し、中間処理後100%リサイクルとなっています。また、以前より金属くずの有価物化に取り組んだ結果、2013年度は全ての金属くずの有価物化が可能となり、産業廃棄物としての金属くずはゼロになりました。

(2013年度の実績)

- ①産業廃棄物原単位の削減 目標：対前年度比10%減
- ②リサイクル率の向上 目標：対前年度比1%向上



また、生産過程で発生する産業廃棄物ばかりではありません。事務所等で発生するコピー紙より小さな紙くずは、従来、燃えるごみとして処分してきましたが、50mm×50mm以上の紙は、古紙回収が可能であるため、専用の回収箱を用意し分別回収を行っています。地道な活動ではありますが従業員の資源循環促進の意識付けにもなっています。



◎下水汚泥減量化プラント「メタサウルス」

三菱長崎機工が、2013年1月に、長崎市東部下水処理場において実機第1号プラントの実証運転を開始した下水汚泥減量化プラント「メタサウルス」は、下水汚泥の減量化及び燃料・肥料としての有効利用、さらには処理中に発生するメタンガスをプラント運転に活用することによる「ゼロ・エミッション化」を可能とするプラントです。(本プラントを2013年7月30日から開催された「下水道展'13東京」に出展しました。)



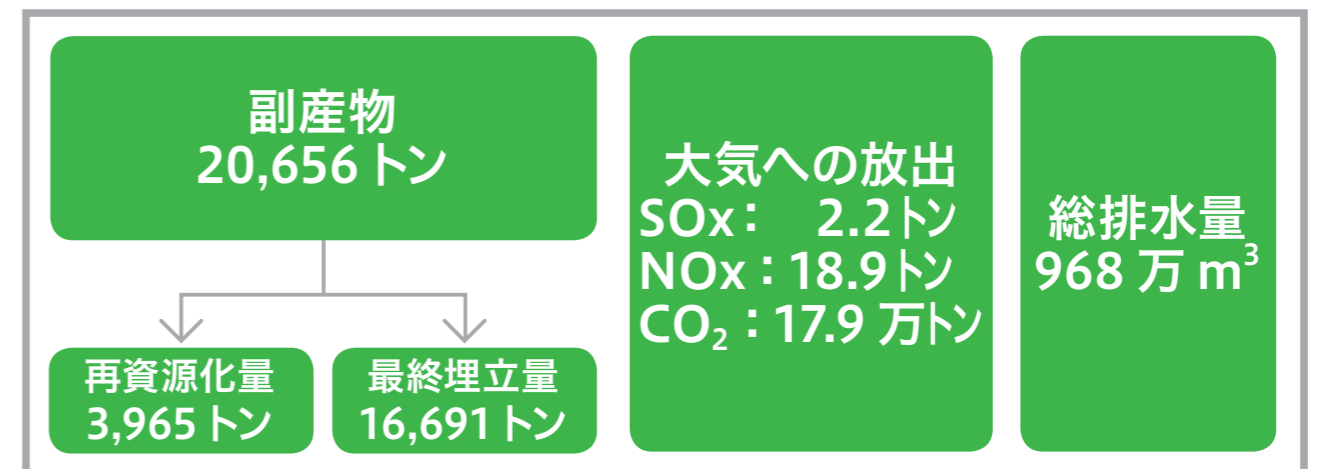
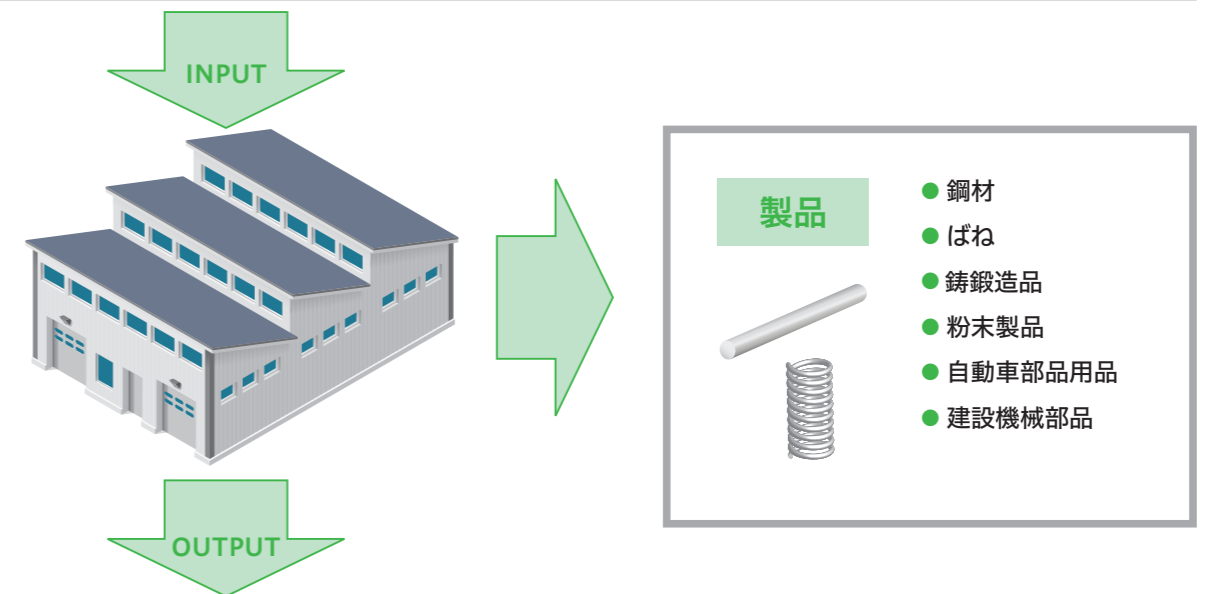
環境負荷物質の管理

環境負荷低減のため、事業活動に伴う環境影響を定量的に把握しています。また、化学物質・排気・排水を管理することにより、環境法規制の遵守に取り組んでいます。

環境マテリアルフロー (2013年度)

生産活動における資源や物質のインプットとアウトプットを集計することにより、環境負荷の状況を定量的に把握しています。

※主要3事業所計



環境負荷物質の管理

PRTR※化学物質排出量・移動量データ(2013年度)

※PRTR：有害性のある化学物質の環境への排出量と廃棄物・下水としての移動量を行政機関に届け出る制度。

(単位：トン/年)

事業所	物質名	政令番号	排出量				移動量	
			大気	公共用水	土壌	自社内埋立	下水道	事業所外への移動
千葉製作所	亜鉛の水溶性化合物	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	エチルベンゼン	53	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	キシレン	80	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	トルエン	300	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
広田製作所	エチルベンゼン	53	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	キシレン	80	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	クロム及び3価クロム化合物	87	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	1,3,5-トリメチルベンゼン	297	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ニッケル化合物	309	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	バナジウム化合物	321	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
	マンガン及びその化合物	412	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0
	モリブデン及びその化合物	453	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	三菱製鋼 室蘭特殊鋼	クロム及び3価クロム化合物	87	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉛化合物		305	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
ニッケル		308	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
マンガン及びその化合物		412	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.0
モリブデン及びその化合物		453	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4

※取扱量1トン以上の化学物質を記載しています。

大気データ(2013年度)

事業所	設備	物質	単位	規制値	実績値
千葉製作所	加熱炉	NOx	ppm	150	52
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	0.03
広田製作所	加熱炉	SOx	K値	17.5	0.07
		NOx	ppm	180	49
		ばいじん	g/m ³ N	0.2	0.093
	ボイラー	SOx	K値	17.5	1.8
		NOx	ppm	180	87
		ばいじん	g/m ³ N	0.3	0.024
	溶解炉	SOx	K値	17.5	< 2
		NOx	ppm	180	42
		ばいじん	g/m ³ N	0.1	0.09
三菱製鋼 室蘭特殊鋼	加熱炉	NOx	ppm	130	80
		ばいじん	g/m ³ N	0.15	0.02
	溶解炉	ばいじん	g/m ³ N	0.15	< 0.01

※実績値は、最大値を記載しています。

水質データ(2013年度)

事業所	項目	単位	千葉製作所		広田製作所	
			規制値	実績値	規制値	実績値
	pH(水素イオン濃度)		5~9	7.3~8.1	5.8~8.6	7.0~7.6
	BOD(生物学的酸素要求量)	mg/L	—	—	25	3.0
	COD(化学的酸素要求量)	mg/L	10	7.6	—	—
	SS(浮遊物質濃度)	mg/L	20	8.8	70	8.6
	油分	mg/L	1	0.5	5	< 1
	銅含有量	mg/L	1	0.01	1	< 0.05
	亜鉛含有量	mg/L	1	0.06	2	0.09
	溶解性鉄含有量	mg/L	1	0.09	10	0.19
	溶解性マンガン含有量	mg/L	1	0.01	—	—
	クロム含有量	mg/L	—	—	2	< 0.05
	窒素含有量	mg/L	33	22	—	—
	リン含有濃度	mg/L	2	0.88	—	—
	鉛含有量	mg/L	—	—	0.1	< 0.05
	フッ素含有量	mg/L	10	0.7	8	1.3
	アンモニア、アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg/L	100	16	—	—

※実績値は、最大値を記載しています。



〒104-8550

東京都中央区晴海 3-2-22 (晴海パークビル)

TEL 03-3536-3111

<http://www.mitsubishisteel.co.jp>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。